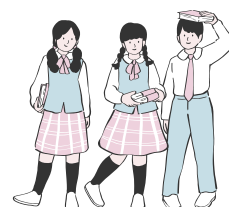




2024

子どもの「今」を支え、「希望ある未来」へつなげる

# 市民活動応援 フォーラム 報告書



無料学習支援から地域で子どもを支え合うネットワークづくりを考える



# 目次

ページ

## 02 — はじめに

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金  
理事長 荻原 妙子

## 03 — 基調講演 『無料塾の必要性と可能性』

認定NPO法人 八王子つばめ塾  
理事長 小宮 位之 氏

## 15 — 助成団体活動報告

報告1 NPO法人 メダカのお弁当  
理事長 鈴木 雄大 氏

報告2 子ども学習支援グループ須賀の寺子屋  
代表 大野 文 氏

報告3 みんなのいばしょポプケ  
代表 武田 恵 氏

## 28 — パネルディスカッション

無料学習支援から地域で子どもを支え合うネットワーク  
づくりを考える

## 33 — 参加者からのフィードバックより

## 34 — 謝辞

### フォーラム開催概要

開催日 2025年2月8日(土) 10:00～12:30

場所 オルタナティブ生活館 スペースオルタ

主催 公益財団法人 かながわ生き活き市民基金

後援 神奈川県/横浜市こども青少年局/川崎市/相模原市/平塚市

相模原市社会福祉協議会/公益財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団/JA横浜

神奈川県生活協同組合連合会/生活協同組合ユーコープ

生活クラブ生活協同組合



# はじめに

## 〈子どもの未来〉を応援する学習支援活動



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金  
理事長 荻原妙子

かながわ生き生き市民基金は2025年2月に5年ぶりのフォーラムを開催し、八王子つばめ塾の小宮位之さんの基調講演、鈴木雄大さん（メダカのお弁当）、大野文さん（須賀の寺子屋）、武田恵さん（みんなのいばしょポップケ）の活動報告に大きな反響がありました。

8割が中流を意識し、格差が少ない国と言われた高度経済成長期が過去の遺物になり、2015年に政府は初めて子どもの貧困率(2012年度国民生活基礎調査)を公表、6人に一人の子どもが相対的貧困にあることが分かりました。気がつけば市民基金にも子ども食堂やフードバンクからの申請がきていました。

この状況を受け2016年に開催した「子どもの貧困に立ち向かうフォーラム」では、現在沖縄大学教授で児童福祉・子どもの貧困・児童虐待を専門的に研究される山野良一さんの講演に対し、60代の方が開口一番「先生はそう言われるけれど私の周りには貧困の子はいません。私たちが子どもころは今よりもっとみんな貧乏でした。」と疑問を呈され、山野さんは「今起きている相対的貧困は見えにくい。豊かな社会の中で自分だけ取り残される貧困が起きている」と説明されたのです。沖縄で全国初めての子どもの貧困調査が実施され、相対的貧困率は29.9%と発表された直後のことです。

市民基金も改めて相対的貧困の拡がりを実感し、その後県内の協同組合・非営利市民団体に呼びかけ、フードバンク研究から設立に進みました。子ども食堂が全国で1万か所を超え、フードバンクの食品提供・フードドライブも定着する中で、市民基金がいま注目しているのは学びの格差です。進学機会の格差により、将来の選択が狭まり、貧困の連鎖にも繋がる恐れがあります。学校での習熟の遅れは、いじめ・不登校にも繋がります。学習支援制度は「生活困窮者自立支援制度の子どもの学習・生活支援事業」、「ひとり親家庭等の支援施策における子どもの生活・学習支援事業」の連携した取組みが、自治体事業として実施されていますが、さらに地域市民の活動が必要です。学習支援活動は、学びだけではなく、居場所、相談、体験などの機能が求められ、地域の人や団体とともに取り組むことで、子どもと地域が結ばれ、地域が子どもを育てるという大きな夢に近づくのではないのでしょうか。

市民基金は、地域課題に気づき解決したいと行動する市民を、おおぜいの市民が寄付を持ち寄る市民資本によって応援する市民自治のしくみです。

今回お話いただいた4つの実践から何を学び、拡げ、次の課題としていくか。フォーラム参加者や市民基金に問われています。

# 基調講演

## 『無料塾の必要性と可能性』

認定NPO法人八王子つばめ塾 理事長

小宮 位之（こみや たかゆき）氏



2012年に無料塾「八王子つばめ塾」を設立。翌年、NPO法人化。八王子市内に元横山教室、南大沢教室、八王子駅前教室、北野教室の4教室を展開。

神奈川県内では、2017年に相模原市に「淵野辺つばめ塾」を開塾している。



著書:「無料塾」という生き方  
～教えているのは希望～  
発行:ソシム株式会社  
2023年12月13日発行



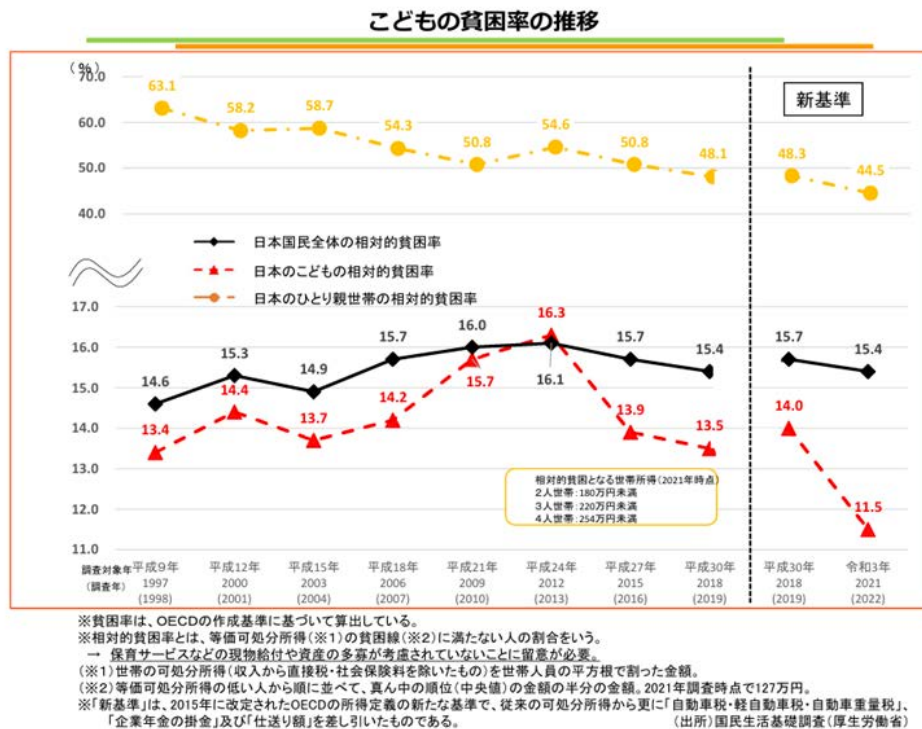
八王子つばめ塾



# 1. 子どもを取り巻く課題

## 子どもの貧困

皆さんおはようございます。「八王子つばめ塾」の小宮と申します。今日は40分間お時間いただきまして皆さんにいろいろお話ができればと思います。それでは早速進めていきたいと思います。まず子どもの貧困ということですが、厚生労働省の「国民生活基礎調査」（2022年）では11.5%、9人に1人が貧困状態となっています。世帯収入の中央値の半分以下で暮らす家庭の子どもを子どもの貧困と定義しているので、もちろん世帯構成によっても変わりますが、だいたい210万円以下で暮らす家庭の子どもの貧困として定義します。9人に1人なんですけど、中央値が下がれば貧困値も下がるので、過去最悪だった2012年の16.3%から必ずしも改善しているとは思えません。というのは皆さんの身近な場所で、見てすぐに貧困状態と分かるような子どもはいますか？見えますか？見えませんよね。でも実際にはいるんです。9人に1人ということは、公立の小中学校で1クラス35人の学級に約4人、実は貧困家庭の子がいるということをご認識していただきたい。なぜかという今の貧困は目に見えません。例えば新品の安い服もいくらかでも買えます。100円ショップに行けば新品の色鉛筆が買えます。なので目には見えない。だけど高校進学や大学に行きたいという時に、一気に貧困が顕在化して進学が難しいというケースが出てくるんです。



出所：国民生活基礎調査（厚生労働省）

## 家計を圧迫する高額な塾代

2025年の都立高校の入試倍率は約1.3倍、都道府県によって違いがありますが、公立高校の倍率としては東京都が日本で1番高く、都立高校受験もかなり厳しいです。そうすると当然、高校受験のためには学習塾に行かなきゃいけないってことで、だいたい7割くらいの中学生在が塾に通っています。日本で1番通塾率が高いのは神奈川県。奈良、東京、大阪がトップクラスで7割以上が塾に行っています。あの子も塾に行ってる、この子も行ってるって数えたら、ほとんどの子が行ってるとなります。子どもたちの体感としては通塾率は8割9割を超えていると思います。子どもからすると、僕だけ行けないっていう感じになると思います。

では、塾って毎月いくらかかるとおもいますか？10万でも20万でも出していくらでも行けるわけですが、最低限これくらい用意してくださいという金額が2万円から3万円、もう1万円で通える塾はないです。つばめ塾のお母さんに聞くと「毎月2万円かかると言われて諦めました」「月3万円はうちでは無理です。だからこちらにきました」と言っていました。僕は「月2万から3万の壁」と勝手に呼んでいます、これくらいかかるのです。でも考えてみてください。塾代が月3万円だと1年間で36万円、夏期講習や冬期講習を含めると年間50万円です。年収200万円の家庭が収入の1/4を塾に出す、無理ですよ。なので学習塾にかかるお金が高いということなんです。

ここまでお話すると「公立中学校ってフォローないの？中学校で放課後に先生が教えてくれれば良いのに」と言われます。僕は東京薬科大学で社会福祉の講義を持っていますが、つい5年前まで中学生だった皆さんに「公立中学校の出身で、放課後に先生が勉強を教えてくれたという記憶がある人は？」と聞くと、手が挙がるのは10人に1人いるかないかです。1割いるかないかということは、公立中学校では基本的には放課後の勉強のフォローはないということです。一方、私立出身の学生も多いのでそういう学生に聞くと、「学校で必ず毎日補習をやってくれた」と答えが返ってきます。つまり、学校がフォローしてくれないとすると、お金があって塾に行ける家庭の子どもは良いけど、行けなければそれで終わりです。格差が広がるだけ、これが現状です。

## 2. 子どもの進学をめぐる現状

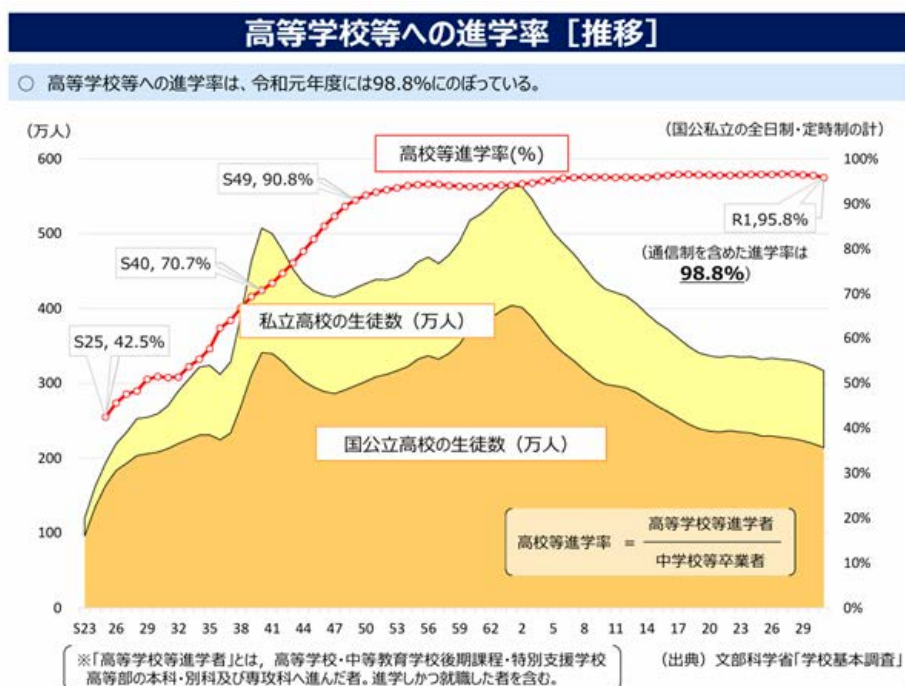
### 八王子つばめ塾の子どもたち

つばめ塾にどんな子どもが来ているのか、ちょっとお話ししたいと思います。まず、高校に行くか行かないかを悩む男の子。10年くらい前の話ですが、「先生！高校に行く意味って何ですか？」と中1の男の子が聞きにきました。びっくりして話を聞くと、母親が高校中退、1番上の兄は中学を卒業して家を出て働いている、1つ上の姉も高校に行かないと言っているとのこと。皆さんは中1のお子さんが、高校に進学するかどうかで悩む姿など考えられないと思います。何が言いたいかというと、生まれた家が違えばそうになってしまうってことなんです。高校に進学するのが当たり前、大学に行くのが当たり前という家庭と、高校進学どうしようかなと悩む子。家庭環境が違えばそうになってしまうということなのです。

もう一人お話ししたいのは、お母さんが難病にかかって仕事ができなくなってしまった家庭の女の子。お母さんは看護師でした。シングルマザーでしたが毎年必ず1度は母娘でディズニーランドに行くような、全然お金に困っていないご家庭でした。ところが彼女が小学校4年生の時、お母さんが難病にかかって仕事が一切できなくなりました。貯金も取り崩し、生活困窮に陥りました。スーパーに行っても野菜コーナーで捨てられたキャベツの外葉を拾い、惣菜コーナーで天かすをパックにかき集め、ほとんどお金を使わずに買い物するという生活をしてきた女の子でした。これは決して50年前の話ではありません。この子は今22歳ですから、平成の時代にあっても事情があって生活保護も受けられず、生活がほんとうに厳しい子もいるんです。要は、貧困に陥ってしまうことは決して自己責任ではなく、生まれた家の状況によってそういう困難に遇うということです。生まれた家が違うだけ、それだけです。これをはき違えると貧困の問題を間違えて捉えてしまうんです。努力していないからとか、離婚するのが悪いとか、そういう問題ではないということが一番言いたいことです。

## 今どきの進学事情

インターネットの掲示板にシングルマザーの話題、生活保護の話題、進学の話が出ると「お金がないなら高校行かなきゃいい」これに何百、何千もいいねが付くわけです。シングルマザー家庭の高校進学という記事等を見るとすごく批判されています。でも98.4%が進学する時代に、「お金がないなら高校行くな」というのは横暴です。同じように専門学校や大学進学についても書き込みがありますが、東京だと85%が進学しています。都立高校のいわゆる受験校でなくても就職率は5%、ほとんど就職しないです。今はほとんどが進学、つまり高卒の方がマイノリティです。また、「大学なんて家庭教師のアルバイトで奨学金もらえなくても行ける」と、特に高齢の方から言われます。ところが、文部科学省が発表している私立大学文系の年間授業料は、今から約50年ほど前の昭和50年では18万円でしたが、令和3年では96万円と実に5.3倍になっています。大学の授業料、高いですよねと言うと、「いや、昔は物価も安かったから、今だったらこのくらいかかるでしょ」と言われます。でも、身近なものの価格で比べたら、実は物価は2倍くらいにしかかってないです。ですから物価スライドと同等だったら大学文系の授業料は年間36万円ほどです。このくらいの学費なら毎月頑張って3万円バイトしたら何とか大学に行けるかなと思うけど、90万と言われたら、もう何ともならない。高校3年生にとって高い学費が進学のハードルになっているというのが現実です。



## 「人生再設計第一世代」と言われる親世代

僕は1977年生まれで「人生再設計第一世代」、1972年から82年生まれくらいまでのいわゆる就職氷河期世代のちょうど真ん中です。うちには今、高校3年生、中学3年生、中学1年生の3人の息子がいますが、僕と同年代のお父さんやお母さんたちがつばめ塾にやってくることが多いです。「シングルマザーです」、「非正規雇用です」、「リストラに遭いました」、「今までバリバリ働いていたけど精神疾患を患ってもう働けなくなって休職中です」という経済的に困難なご家庭が多いです。今ちょうど子どもが中学生世代に差し掛かるというお母さんお父さんが、この「人生再設計第一世代」だということをご認識いただければと思います。

### 3. 八王子つばめ塾とは

#### 講師1人、生徒1人でスタート

つばめ塾について改めて紹介しますと、経済的に苦しいご家庭の中高生のために無料で学習支援を行っている団体です。今から12年前の2012年9月1日に設立しました。講師が私1人、生徒1人のたった2人で始めました。翌年NPO法人となり約5年前に認定NPO法人になりました。現在教室が4箇所、ボランティア講師が40名と生徒が32名でボランティアで活動しています。生徒の4割が母子家庭です。昔は母子家庭が5割を超えていましたが、なぜ少なくなっているかという八王子市も中1から入れる無料学生支援を始めました。いわゆる母子家庭と生活保護家庭が対象で、対象となる子どもたちはそちらに通っています。ところが、共働きだと「お父さんが休職中でお母さんパートでお金がありません」といっても絶対に入れないんです。特にコロナ後に、今まではお父さんが飲食店勤務で残業してなんとか暮らしていたけど、コロナで残業なくなって一気にお金がなくなったというような事情で、今は6割が共働き家庭です。共働きというとなんか貧困ではないと思うかもしれませんが、うちに来ている子は3人きょうだい4人きょうだいと多子世帯の家庭の子どもが多く、年長の子から順々に通ってきます。やはり3人分の塾代は出せないというのが今の日本なのだと思います。

#### 八王子つばめ塾の入塾条件

つばめ塾の入塾条件は家庭が経済的に困っていること。ただし収入証明書の提出はありません。僕がヒアリングしています。僕は年収100万円から500万円までの生活体験があるので、「こういう仕事で正社員です」「シングルマザーです」など話を聞くとだいたいの年収がわかります。だからたまに「6つ習い事に通わせていてお金がありません」という場合は「4つやめれば有料塾に通えます」とお断りしています。それから他の有料塾や家庭教師に習っていないこと。やる気のない子はダメなんです。講師は全員ボランティアなので、例えば一生懸命仕事した後に来て、生徒が寝てたとか紙飛行機を飛ばしてたではやる気にならないじゃないですか。ボランティア講師がうちの唯一の資源なので、そのボランティア講師がやる気をなくするのはアウトなんです。それでやる気のない子は辞めてもらいます。20人に1人ぐらいで、そんなに多いわけではありません。



## どんな講師がいるのか

ボランティアは大学生が40%くらい、現役社会人が60%です。八王子には大学が17ありますが、基本的には社会人が多いです。創設者の年齢層に近い人たちが集まってくるようで、僕が40代なのでボランティアも40代男性がいちばん多いです。公務員もいるし、八王子市や東京都庁の職員もいました。現役の教員も何人かいますし、サラリーマンや専業主婦、新聞記者、大手商社勤務など人材豊富です。ボランティアに求めるのは生徒に寄り添って教えてもらうこと。減点法ではなくて加点方式、いわゆる「100点のうち50点しか取れてない」じゃなくて、「君、50点も取れるんだ」と積み上げて「さあもうちょっと頑張ろう」みたいな加点方式で子どもを見てくださいをお願いをしています。

## どうして無料でできるのか

では、どうして無料できるかということですが、これは講師が無報酬だからです。交通費の支給も一切ありません。それと教室の賃料が極めて安い。元横山教室は義母が持っている元学生寮ですし、その他の教室も公民館や個人宅、あと無料で提供しますという会場を使っているので無料でできています。

左下の写真が拓殖大学の元女子学生寮で、ここの2階の6室を使っています。食料倉庫や図書室があります。右側が八王子駅前前の公民館です。これはコロナ前の写真で当時は生徒が70人くらいいましたが、今は30人くらいにして教えています。



拓殖大学の元女子学生寮を活用した元横山教室



八王子駅前教室は駅近くのクリエイティブホール会議室を使用

## 4. なぜ無料塾を立ち上げたのか

### 生い立ちについて

どうしてこんなこと始めたのかというと我が家の生い立ちにあります。我が家の年収は150万円くらいの苦しい家庭に育ちました。八王子の大きな都営住宅に住んでいましたが、8割が貧困家庭という地域でした。中学校では周囲があまり勉強しなかったのも、南多摩高校（現在の都立南多摩中等教育学校）という八王子で2番目の進学校になんなく進学しました。ところが入学したら周りはみんなお金があって塾に行っていました。それは良かったんですが、高校3年生の春に親父に呼び出され「お前、高校辞めろ。1万1千円の学費が払えないから、高校辞めてすぐ働け」と言われてもうびっくりしました。今は高校授業料無償化という話ですが、30年前はどんなに貧困家庭でも授業料を払わされたんです。慌てて担任に日本育英会の奨学金、今で言う日本学生支援機構の高校生奨学金に申請し、自分でお金を借りて自分で学費を払い込み、何とか卒業のメドが立ちました。

### 「お金がないと勉強できない」という現実

今度は大学に進学したいと言ったら、「おまえはすぐ働け、大学進学は諦めろ」とものすごく怒られました。貧困家庭だったのですが何とか認めてくれと2回土下座して許してもらいました。なぜそれほど大学に行きたかったかというと、僕は世界史が学年トップでした。世界史を職業にしたいと思って高校の教師をめざし、そのためには絶対に大学行かなきゃということで大学進学をめざしました。許してはもらったものの金はありません。新聞奨学金に電話しましたが断られ、結局母方の祖父母に援助をお願いしてなんとか國學院大学の歴史学科に進学できました。ところが今度は教科書が買えなかったんです。1冊700円ぐらいだろうと思って本屋に行ったら、3千円と書いてあってもう驚きまして、1ヶ月間はノートだけで教科書は持たずに授業に出ていました。キャンパスでは昨日知りあったばかりの友達に次の日にはお金を借りるといった感じで、お金には苦労しました。「どんなにやる気とか夢があっても最低限の実力があってもお金がなきゃ勉強できないんだ」ということが骨身にしみて分かりました。



大学卒業後は私立高校の非常勤講師になりました。僕が受験した1999年7月の東京都の高校教員採用試験の倍率が全国で1番高かったんです。今は東京都の英語で1.1倍、社会で3倍ですが、僕の時184倍です。考えられないですね。だから今の教育現場には僕と同年の教員がほぼいないです。副校長になる人材が枯渇しているのです。当時の採用倍率が3倍だったら、もう60人くらいは採用できていたはずですが、計画的に採用してこなかったのも、55歳以上の方と30代くらいの若手しかいない。だから若手教員が有効なアドバイスを受けられない。それが今の教育現場の疲労疲弊の原因の1つでもあると思います。

## 東日本大震災の経験から生まれた思い

私立高校の非常勤講師になって4年間、これでは結婚もできないと思い切って映像制作の仕事に転職することにしました。そこでアフリカのウガンダという国で子ども兵士を取材したり、レバノンのパレスチナ難民キャンプに行って仕事をしました。無料塾を始めた直接のきっかけは東日本大震災でした。震災の10日後に軽トラックで仙台に行きました。小さいビデオカメラで1週間取材し、いろんなものを見たり聞いたりして帰ってきました。2011年3月28日、この時東京近郊では計画停電をやっていました。電気が足りないから地域ごとに時間を決めて止めるじゃないですか。その時、東京の人が「うちの電気止めるな」と文句を言っているのを聞いてもう愕然としました。自分の家の電気が3時間止まるだけで、みんながこんなに文句を言っていると何とも言えない気持ちになりました。その時パッと出てきた答えが「人の役に立ちたい」ということでした。だから最初から無料塾を作りたかったわけではないんです。「人の役に立ちたい」ということが1番最初です。

## 「無料塾」との出会い

人の役に立ちたい、そうは言ってもここで仕事を続けながら、被災地でボランティア活動をするのも現実的ではない。それでこの八王子で地元の人のために何かできないかなと考えた時に、元々教員だったので学習支援のボランティアができるんじゃないかなと思いました。当時「学習支援ボランティア」、「勉強ボランティア」で検索したら、無料塾はほとんど出てきませんでした。2011年の4月の段階で出てきたのはフリースクールで、40団体出てきました。僕は全部読みましたが、素晴らしい活動ですが僕にはピンとこなかった。5ページ目か6ページ目くらいに「国分寺無料塾」というのが出てきて、「無料塾って何だろう？」と思ってクリックし、画面の左上の「経済的に苦しいご家庭の中学生高校生のために、無料で学習支援をしています」というのを読んだ瞬間に、雷に打たれたぐらい衝撃を受けました。もうびっくりして本当にブルブル震えるくらい、どんなに言葉を費やしても表現できないくらい、筆舌に尽くしがたい感動です。

## 八王子つばめ塾設立へ

世の中ではこんなに素晴らしいことをしているんだと感激したのですが、「よし、ここでボランティアしよう！」と思ったら、「毎週土曜日に開催」と書いてありました。当時の映像制作の仕事は基本的に休みが取れないのが当たり前でしたから、こんなところでボランティアしたいと思っても毎週土曜日に行けないじゃないか、とがっかりしながら1年が過ぎました。その頃、先ほど見ていただいた義母が貸していた拓殖大学の学生寮が撤退したのです。一部を倉庫にしようというので、2012年の夏にここで自分で無料塾を作れるんじゃないかと見学に行きました。一部屋貸していただいて、2012年の9月からスタートしました。半年経った頃には無料塾が面白くなって映像の仕事辞め、今に至っています。

2013年4月、現在高校3年生の長男が小学校入学、次男が幼稚園入園、三男がまだ抱っこの時、僕は完全無職になりました。やっと予備校のアルバイトが決まり、家庭教師、弁当の配達、コンビニ、ありとあらゆる仕事をしました。非正規雇用で経済的には厳しい状態でしたが、今は私立高校と薬科大学の非常勤講師、クリニックで医療事務の仕事を午前中だけして、つばめ塾から月10万円の理事報酬が出るようになり、3足の草鞋を毎日履き替えながら暮らしています。



## 5. 八王子つばめ塾の理念と実現のための施策

### 「人の役に立ちたい」と思う青少年を育てたい

つばめ塾の理念ですが、つばめがまた同じ巣に戻ってくるように、100%ボランティアで成り立っているつばめ塾から育った卒業生が、またボランティアというフィールドに戻ってきてもらいたい。つばめ塾の講師でなくても少年サッカーチームのコーチだっていいし、子ども食堂だっていい、「自分もいつか人の役に立ちたい」と思う青年を育てたいというのが理念です。もちろん現実に生徒の学力を上げてあげなきゃいけないし、世の中も立て直さなきゃいけない。でも、「自分さえ良ければいい」とか「お金さえあればいいんだ」という考えを捨てて「自分もいつか人の役に立ちたいな」と思う青少年を育てることがつばめ塾の理念です。ですからつばめ塾は有料塾の無料版でもないし劣化版でもありません。僕は無料塾は一つの人材育成機関だと思ってこの12年続けています。いつ芽が出るかなんて誰にも分からないじゃないですか。1年後に出る子もいれば30年後に出てくる子もいるだろうけど、種を撒かなければ芽が出てこないことだけは100%間違いないので、今一生懸命コツコツと種を撒いています。実際、卒業生たちが大学に行って教えに帰って来てくれたつばめが9名、325人卒業しているのですごく多いわけではないけれど、9名が帰ってきている、本当にありがたいです。

### 奨学金制度

理念実現のための政策として奨学金制度を持っています。国や東京都、八王子市から今まで1円ももらっていないですし、どこからも補助金をもらったことはないですが、年間300万円ぐらいの奨学金を運用しています。中学生にはつばめ塾に通う交通費、高校生には何に使っても良い3千円の奨学金を支給しています。大学生にはうちでボランティアをすれば2万円を返さなくていい奨学金を出していて、その他にも高校入学時と大学入学時に教科書奨学金を2万円ずつ支給しています。あと資格チャレンジ奨学金。英検とか漢検、数検やTOEICなどにチャレンジする子には受験費用として全額を出しています。

### 教福中道 ～教育と福祉のバランスを考える～

フードバンクとの連携も取って、「お米プロジェクト」と言って全国からお米の寄付が集まります。つばめ塾のお米を集める能力はめちゃくちゃ高く、一昨年が1.5トン、去年が2.2トン、今年は1.3トンぐらいのお米を配る能力があります。僕は「教福中道」という造語を作っていますが、教育も大事だけど、だからと言ってご飯食べられないのもまずいことで、つばめ塾の塾生や卒業生の家庭に毎月お米やパスタなどを配っています。お腹減っているのに勉強やれと言うのは無理じゃないですか？ 明日の米どうしようという中で、子どもの進学先だけを考えるというのも無理じゃないですか。「衣食足りて礼節を知る」ではないですが、最低限のご飯を食べられないことが勉強に及ぶ影響はとても大きいと思うので、やはり両方バランスよくなければいけないと思います。教育だけやればいいのか、福祉だけやればいいのか僕は思っていないんです。なので「教福中道」両方やろうというのがつばめ塾の理念です。



## 温かい支援が学習支援活動を応援

イベントは全て無料です。肉食べ放題、ジュース飲み放題のバーベキュー大会をやったり、受験生激励会や卒業を祝う会もあり、ピザをとってみんなで食べたりします。卒業遠足では八王子の駅前にバスをチャーターしてディズニーシーに行きますが、これもすべて無料、しかも6千円の小遣い付きです。ある支援者が「お金はいくらでも出すから子どもたちを連れて行ってくれ」ということで、温かい支援がつばめ塾の活動を応援してくれています。



元横山教室前でのバーベキュー大会の様子

## 6. 「無料塾」を広げる

### 「絶対にやる！」という決意が大事

市民活動の話です。ノウハウの広げ方ってことで、申し訳ないですけど決意が足りないんです。批判しているわけではなく、とにかく決意することが大事だということです。僕がつばめ塾を学生寮の一室で作ったその日に誓ったのが、「無料塾を全国に広げる」ということ。そして全国の無料塾の半分は弟子か孫弟子にすると決めました。1か所しかないところから始まり、実は今、弟子と孫弟子が多分40%ぐらい、ひ孫弟子までいます。阪神つばめ学習会が弟子で、東海つばめ学習会が孫弟子、さらに名古屋つばめ塾がひ孫で、さらにひ孫の弟子みたいな無料塾が広島にあります。

皆さんがもし「無料塾を広げたい」と本気で思うのであれば、心の中で誓うべきです。思わなければいつまでもできないですけど、思えばいつかできるようになります。例えば子どもたちに必ず週1回ご飯を出してあげたいと思うんだったらそうやるべきですし、やればだんだん人が集まってきます。それが「やれたらいいよね」と言っていたら、多分「いいよね」で10年過ぎると思います。僕は無料塾を始めた時、こんな素晴らしい活動はないと思い「絶対に無料塾を全国に広めるんだ」と決意しました。

## 全国に広がる無料学習支援活動

八王子つばめ塾の傘下で今、多拠点化構想といってつばめ塾を名乗ってくれば運営費を全部負担するという形で淵野辺、世田谷、川越、枚方、此花、瑞穂という風に広がっています。東京つばめ塾というもう1つのNPO法人を運営していますが、こちらも文京、調布、足立、板橋、北海道の札幌、帯広や岩手とどんどん広がっています。神奈川で活躍する弟子たちは「相模原みのり塾」さん、「あすのち」(※)さん、高校生のバレーボール部の同級生が大学生になってから立ちあげた「かわさき芽吹塾」さんなどがあります。

あと「あすのち」という団体を是非「X」で調べてみてください。高校生5人組で立ち上げた団体です。高校1年生の時に来ましたが、最初大学生だと勝手に思い込んでいたところ、現れたのは高校生で「高校生で無料塾を作りたい」と言うのでもうびっくりしました。最初に「お金どうするの?」と聞いたら、「児童館で1枚1円で3000枚チラシを印刷するので、一人600円ずつ出し合って3000円で作ります」と言うので、3000円出して「これ使って印刷代に当ててくれ」と。僕がこの団体の最初の寄付者になりました。「あすのち」は座間と横浜で活動していて本当に素晴らしい団体です。



写真:「あすのち」ホームページより

※あすのちとは、「子どもが自分の明日を信じていける社会」を目指して活動するボランティア団体。小学生・中学生・高校生・高校に行っていない10代に向けた、学習サポート活動とフリースペース(居場所)づくりを行っている。2017年に設立後、座間市と横浜市で活動。高校生~社会人のボランティアスタッフ約45名と、年間約50名の生徒が参加する団体。(あすのちホームページより)  
第12期福祉たすけあい基金助成団体・2019年度キララ賞(かながわ若者生き活き大賞)受賞

あすのち



## 支援の輪を広げる

支援の募り方です。SNSはとても重要です。でもSNSを見るのは若い人が中心です。ここで、お金と時間に余裕のあるのはどんな世代の人かと考えると、寄付ということだけを考えればとにかくマスコミに出た方がいいです。マスコミというのは未知との遭遇で、今まで知らなかった人にも情報が届くことがあります。興味のある人はインスタもXもみんな調べています。だから今アクセスしている人は既に知っていて理解のある人です。だけどマスコミに出ることで、新聞やテレビを通じて新たに活動を知ってくれる人がいる。半年前にテレビに出たのをきっかけに、ある不動産会社の社長が毎月80kgのお米を届けてくれることになりました。そういうことで今まで知らなかった人に情報が届くというのがマスコミの大事なところなんです。新聞とかテレビに出られるならなるべく出たほうがいいですね。僕はテレビ、ラジオ、新聞も韓国のKBSまで出ました。

## 子どもたちのためにできること

これからの課題です。不登校が激増していることは皆さんもご存知だと思います。小学生、中学生の不登校が増えたということは、学力習得が十分じゃない高校生が増えるということで、つばめ塾も高校生クラスの編成を変えました。大学受験クラスと自習クラスがありましたが、学び直しとして元不登校の子たちが通信制、定時制高校で勉強できるクラスを増やしました。このようにつばめ塾も変えていかなくてはと思っています。



2025.2.8フォーラム資料より

最後に皆さんお願いします。無料塾はまだ知名度が低いです。ほぼ同時期に始まった子ども食堂は全国に1万箇所以上と広がっていますが（認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ2024年12月発表）、無料塾は約300団体とまだまだ少ない。今日参加した70人の方が「無料塾というのがあるらしいよ」と知人に話していただだけでもいいです。学力の二極化が始まっています。近所の子どもたちに九九や少数、分数を教えるだけでもいいので、行動をしていただけたらと思います。中学校3年生の数学って簡単に教えられる。だけど九九だったら皆さんでも十分教えられると思います。子どもたちにちょっともいいから宿題をさせたり、そういうことがすごく大事だということです。是非やっていただければと思います。

本を出版しました。ぜひ本を読んでいただいて、ご興味のある方はいろいろ調べていただければと思います。今日はたくさんの方の前でお話する機会を頂戴しまして本当にありがたいと思っています。何かありましたら是非お声掛けいただければと思います。

今日はどうもありがとうございました。



# 助成団体活動報告

## パネルディスカッション



コーディネーター



パネリスト



パネリスト

### NPO法人メダカのお弁当

(設立2022年 活動地 相模原市/  
伊勢原市)

理事長 鈴木 雄大  
(すずき たけひろ) 氏

2022年から相模原市でお弁当提供型の子ども食堂メダカのお弁当を始める。現在までに、メダカのパントリー、地域の飲食店と連携した「ドコデモこども食堂」、無料学習支援「メダカの学校」なども展開。

2023年から相模原市の子どもの居場所の認知と連携を広げる「さがみはら子どもの居場所サミット」副運営委員長



### 子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋

(設立2016年 活動地 平塚市)

代表 大野 文  
(おおの ふみ) 氏

様々な事情で家庭学習が十分に  
行いづらく、学習塾等にも通う  
ことが困難な小中高校生を対象  
に、ボランティアの大学生や地  
域の大人が子どもに寄り添い無  
償で学習支援している。学習の  
喜びと習慣を身に付け、学力向  
上を目指すことで、将来、夢や  
希望を持って進級・進学できる  
青少年の健全な育成を目的に活  
動している。



### みんなのいばしょポプケ

(設立2022年 活動地 相模原市)

代表 武田 恵  
(たけだ めぐみ) 氏

相模原市中央区相生近隣の小中  
学生を対象とした「居場所」や  
「無料学習支援の場」を運営す  
る。様々な年代の人たちと出会  
い、安心してともに過ごす中  
で、どの子ども大切にされている  
存在だと感じてほしい、そし  
て、そのような中で、子どもた  
ちの学ぶ意欲を育て、わかる喜  
びをもてる場でありたいと願い  
始めた。



## 助成団体活動報告①

# NPO法人メダカのお弁当

理事長 鈴木 雄大 氏



生活クラブソーシャルインクルージブ助成 第2期  
ユーコープ子ども食堂・地域食堂応援助成  
ユーコープ子ども応援助成

メダカのお弁当



### 支援活動のきっかけは「恩おくり」

2022年に「メダカのお弁当」というお弁当提供型の子ども食堂を始めました。茶髪のヤンキーな妻と一緒にやっています。最初は任意団体で始めて、4月に第1回のお弁当を提供させていただきました。半年後の11月22日、いわゆる「いい夫婦の日」にNPO法人化し、2024年1月から無料学習支援を始めました。

なんでメダカのお弁当を始めたのかと言いますと、実は本業は学習塾なんですね、こちらは妻とふたりで始めてから23年目になりますけれども、商売としてやっていると、いい時もあれば悪い時もありました。もう、やばい夜逃げしなきゃというような状況もありました。ところがですね、いろんな方に助けていただいたんです。いつか本にしようかなぐらいのこともいろいろありました。なんとか頑張って、「恩返し」をしようと思ったのですが、皆さん、徳が高いんですよ。その思いがあるんだったら、社会に何かしら第一歩踏み出せと言う。そこで、恩返しではなくいわゆる「恩送り」を支援活動として行うことができないかと考えました。

何ができるのかと考えた時、本業と同じ学習塾をやると、本業は有料で支援活動では無料、これどうなんだ？ってことになってしまう。でも、僕の考えなんですけど、自分の持ってるスキルを活かす方がいいと思います。全然別のことをすると、準備も大変だし、なかなか長く続かない。ところが本業はノウハウをもっているのだからやりやすいんです。というわけで、まず、八王子つばめ塾の小宮先生のところに突撃し、2017年から「淵野辺つばめ塾」をやっています。こうして、学習支援を続ける中で有料塾と無料塾の子たちの差というものを衝撃的に味わったんです。塾をやっていると、いろんな子どもを知っていると思いがちなんですが、無料塾をやることで、世の中はもっと広く、いろんな問題点があるんだと気づかされました。そこで、子ども食堂をやりたいなって始めたのが、このメダカのお弁当なんですね。子ども食堂は、基本的に学校が終わってからの時間帯になります。そうすると本業の塾とバッティングするんです。だったら朝やっチャおうかなって、お弁当配布を始めたんです。



## 食事・食材支援事業(メダカのお弁当等)

メダカのお弁当は、月曜日から金曜日までの毎朝、妻と2人で朝5時に起きてお弁当を作り、朝7時から約20食お渡ししています(予約制・無料)。2025年1月31日現在で、稼働642回。提供数が11,492食になりました。これを今後も続けていきたいと思っています。

でも、お弁当というのは一食だけなんです。一食だと、じゃあ次の日どうすんだ、来月どうすんだって心配は尽きません。そこで、食堂や無料食材お渡し会「メダカのパントリー」を始めました。パントリーは神奈川県愛川町でパントリーをしていらっしゃる「ぶどうの木(※1)」の山本さんのところに突撃して教えていただいて、月に1回約20世帯に食材の配布を行っています。「ドコデモこども食堂」というのは大阪の一般社団法人「明日への力」が始めたもので、支援を必要とする子どもに、提携した地域の飲食店でいつでも使える食事チケットを配布するしくみです。一般的な子ども食堂は、開催日やメニューが決まっています。ところがお腹がすいた、あるいは困っているというのはその日に限らない。そうであるなら、営業時間が長い飲食店に行けるようにしようというものです。メダカのお弁当では相模原市の5つの飲食店と提携し、20世帯に毎月3000円分ずつアプリに付与する形でやっています。

## 2025年度は365日メダカのお弁当にチャレンジ

現在、メダカのお弁当は平日のみですが、平日働いて疲れている人がいるから土・日こそ食支援が必要だということで、2025年度は、365日メダカのお弁当にチャレンジしようと思っています。こういうこと言うと、頭おかしいんじゃないか、ちょっと頭のネジ一本外れてんじゃないのって言われるんですけど、それ褒め言葉なんです。もっとやりたくなります。もっと言ってください。

## 無料学習支援事業(メダカの学校)

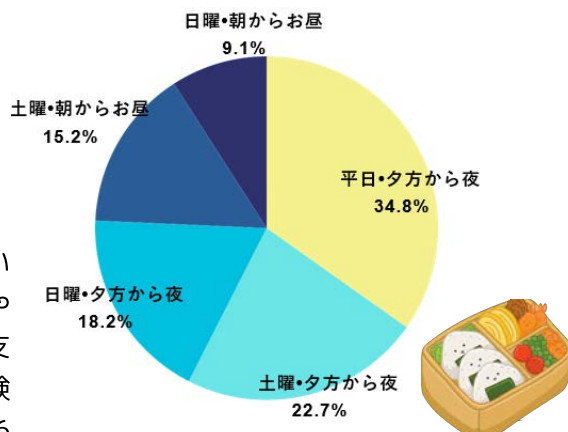
食支援というのは「今」の充実で、「今」が整っていないと先が見えないということで重要です。一方で、やはり「未来」を考えなきゃいけないということで、食支援を2年間やりながら、僕たちの持っている技術と経験を活かして「メダカの学校」を始めました。現時点で6教室あります。最初は相模原二丁目教室。これは地域の自治会と連携しています。2番目の伊勢原八幡台教室は、神奈川県土木課が県営団地の空き家活用のプロジェクトと一緒にやらないかということで、県営伊勢原テラス・コミュニティールームを無償で貸していただいております。3番目の清新教室は無料サッカースクールとの連携です。スポーツ等はなかなかお金がかかりますから、勉強し終わった後にサッカーができるという魅力があります。4番目の相武台ひばりカフェ(※2)教室、5番目の相模大野駅前教室は大学生が中心となって運営する教室です。次世代との連携ということで一緒にやっています。

※1 フードパントリー&みんなの居場所「ぶどうの木」  
神奈川県愛甲郡愛川町で生活にお困りの方を対象にした食の支援と、子ども食堂活動をしているボランティア団体。

## アンケート結果(2025.1.11集計)

皆様にとって「メダカのお弁当があると嬉しい曜日&時間帯」を教えてください！

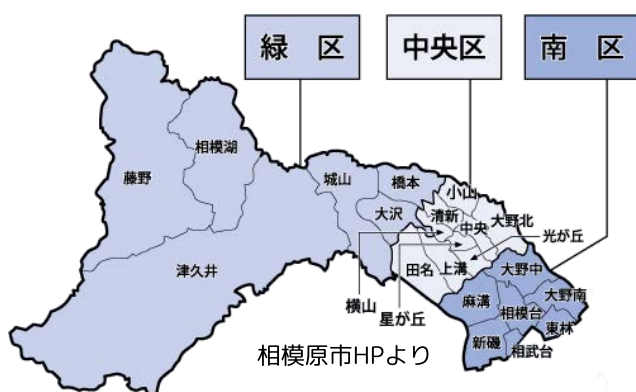
対象：メダカのお弁当「公式LINE」登録者  
有効回答数：66通



※2 ひばりカフェ  
相模原市の相武台団地の中で運営する地域密着型のカフェ

## 支援事業の必要性と可能性 ～人口減少地域での活動に力を注ぐ～

そして6番目の相模湖教室。2024年の10月に開いた新しい教室なんですけれども、実はここが僕たちの今後のテーマにつながります。相模原市は結構広くて、相模湖だとか藤野の方とか人口が伸び悩んでいるところもあるんです。なぜ相模湖教室を開いたのかと言うと、僕はここに支援事業の必要性と可能性を感じているからです。有料塾はその対価をサービスの受益者からしか受け取ることしかできません。先ほどの小宮先生もそうですし、うちもそうなんですけども、無料学習支援には全国から支援が集まっています。いろんな方々からの応援をいただける。俺は出来ないからお前に託すよと。メダカやってくれよという声をたくさんいただくんです。そうなってくるとですね、今まで手の届かなかった地域、例えば人口減少地域とかに展開することができるんです。でも、うちの生業である学習塾を相模湖に出せと言われてたら断ります。要は成り立たないから、そういう商売が難しい地域には有料の学習塾がほとんどないんです。そういったところに僕たちのこの支援事業が成り立つんじゃないかと思っております。ですから第7教室はですね、相模湖のさらに奥の藤野、または県央地域の愛川とかそういったところで考えている次第です。



|         |            |
|---------|------------|
| 2023年1月 | 開催構想発表     |
| 3月      | チーム2023始動  |
| 11月     | 第1回サミット開催  |
| 2024年3月 | チーム2024始動  |
| 5月      | こども委員会発足   |
| 6月      | NPO法人設立    |
| 7月      | なのはな活動開始   |
| 10月     | SDGSアワード受賞 |
| 11月     | 第2回サミット開催  |
|         | 藤村新委員長就任   |
| 2025年1月 | アフターパーティー  |
| 3月      | チーム2025始動  |

※3 さがみはら子どもの居場所サミット  
「第3期子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成」助成事業

## さがみはら子どもの居場所サミットの継承

実はもう一つですね、2023年から「さがみはら子どもの居場所サミット」(※3)の理事をやっておりますが、2024年11月、この活動を広げていこうというイベントを相模原市で開催しました。また2025年もやりますが、サミットの理念であります若手への継承ということで、今まで僕とか委員長の佐竹輝子(ひばりカフェのオーナー)がやっていたんですが、30代の若い藤村千佳運営委員長に任せることになりました。サミット2025が目指す7つのゴールは藤村が作りました。令和の新しいコミュニティをつくるんだと、さまざまな連携をするんだと、次世代の継承をするんだという形でやっております。

「広げよう地域に根ざしたサミットの輪」ということで、どんどん新しい活動が出てきておりますので、皆さんも仲間になっていただければなと思っています。

新しいサミットにご期待ください。

## サミット2025が目指す7つのゴール

### SAGMIHARA CHILDREN'S PLACE SUMMIT2025 SEVEN GOALS



かなわねども子育て  
支援奨励賞  
特定非営利活動法人  
スタカのお弁当 殿  
貴団体は子ども子育て支援の  
推進において優れた取組みを  
行なうなど多大な貢献をされ  
ましたので表彰します  
令和七年一月二十日  
竹島 孝幸 尾島 敏彦  




さがみはら  
子ども・子育て・ママ&パパ

# 支障大賞

## 2025

当日来場者による投票で決定！

### 大賞1件/副賞10万円

**賞金提供** NPO法人 さがみはらの未来

団体・個人・事業者等が取り組む子どもと子育て、そしてママ&パパへの支援活動に対する思いとそれをサポートする皆様(企業や個人支援者の方々など)の**マチマチの情を創出**しました。  
彼等の素晴らしい活動を広げたい！ ぜひご応募ください。

**2025.10.24(金) 15:00開演**

MC：金沢シーサイドアリーナボランティアサークル 大河内綾

**入場無料！ どなたでもご入場できます**

**会場** 小田原緑地大野球場下町さくまホール  
**ユニコムプラザさがみはら**

15:00～ ノミート活動プレゼンテーション

17:00～ 来場者全員による投票

17:30～ 大賞その他賞の発表と表彰

18:00～ 来場者の皆様との交流会

**エントリー募集**

受付期間 3/15(土)～6/15(日)

共同開催

NPO法人 さがみはら子どもの居場所サキツチームユニバース運営委員会  
NPO法人 さがみはらの未来(ミライ・テラス)

https://shientaisayo.jimdosite.com/  
shientaisayo@gmail.com

**[広告特別協賛]**

- 株式会社コンピュータート
- 有限会社らいひる
- 有限会社 清次郎商事

**[協力]**

- 神奈川県産花供給公社
- さがみ生活クラブ生活協同組合

**[後援]**

- 国管中たけなわ区画
- 神奈川県
- 三浦市議会
- 相模原市議会
- 相模原市社会福祉協議会
- かながわ生活きずき市民基金㈱
- フードバンクかながわ㈱
- 公益財団法人
- 横浜実業教育専門学校
- 全食参加による地域未来創造機構
- (株)エフエムさがみ FM HOT 83.9
- 神奈川県経済専門校
- 公益財団法人
- 相模原市産業振興財団
- 公益財団法人
- セカンドボーイ神奈川
- コカ-Colaパートナーズジャパン
- 株式会社
- 株式会社StockBase
- 細根エネルギー株式会社
- 全食エフエムさがみ FM HOT 83.9
- 全国こども食育支援センター

## 助成団体活動報告②

# 子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋

代表 大野 文氏



新型コロナ対応緊急応援助成 第1次・2次

第14期 福祉たすけあい助成

生活クラブソーシャルインクルーシブ助成 第1期・2期

ユーコープ子ども食堂・地域食堂応援助成

ユーコープ子ども応援助成

子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成 第1期

須賀の寺子屋



### 須賀の寺子屋のはじまり

ただいまご紹介いただきました「子ども学習支援グループ須賀の寺子屋」の代表しております大野文と申します。よろしくお願いいたします。私たちは、ひとりひとりに寄り添った子どもの包括支援活動をモットーとしております。

活動の拠点は、湘南ひらつかになります。本日お集まりの皆さんはあまり平塚になじみがないと思いますが、相模湾と相模川に沿った平塚市の南東部に位置するところが、団体の名前の起こりである旧須賀村というところになりまして、現在では港地区というところになります。こちらで私たちは活動をさせていただいております。

活動の目的は、本人や家族の事情により学習等が困難な子どもや子育て家庭に学習支援や食支援を行い、将来、夢や希望を持って進学・就職できる青少年の健全な育成としております。活動の始まりは2人の小学生との出会いからです。1人のお子さんは学校へ通わせることができない家庭で育てておりました。もう1人のお子さんは、発達に問題を抱えていることに気が付かないご家庭で育てておりました。それぞれ子どもではなくて、面倒を見ていらっしゃる養育者の方から、勉強を教えてもらえないかということ、私が個人的に頼まれました。私は平成22年から、保護司として活動をしております。その前は保育士として保育所とか学童保育所で活動をしていました。また10歳からずっとガールスカウトの活動をしております。またPTAの活動もしておりました。要するに生まれただけから大きくなるまで、一人のお子さんを長く見る事ができるような環境の中でのボランティア活動を長くさせていただいておりました。そのご縁から頼まれごとをしたわけです。それまでこういう形の学習支援を頼まれたことがなかったので、その時点での社会の状況また地域の子どもの状況についていろいろ調べましたところ、やはり問題を抱えていらっしゃるお子様が増えていることが分かりました。そこで、頼まれた子たちだけの学習支援ではなくて、地域の子どものためにということで須賀の寺子屋を始めることにしました。2016年の7月に小学生の学習教室を、同年12月には中学生の学習教室をはじめました。そして同年12月22日に任意団体として成立しました。私たちは長くやってるんですけど、会員の皆さんからのご同意が得られないので、まだNPO法人にはなってません。



湘南ひらつか

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金  
市民活動活動応援フォーラム2024 20

## 4つの事業で子どもの包括支援を

事業は4つです。1つ目は、小学生と中高生の学習教室の学習支援事業です。2つ目は、須賀の寺子屋食堂と銘打っての子ども食堂、フードパントリーの食支援事業。3つ目は、子どもや保護者の方からのお困りごとに対応する相談事業。そして4つ目は支援をする側の自己研鑽である研修会の事業。この4つの事業で、子どもの包括的な支援を実現できるようにしております。

## 包括支援事業



### 学習支援事業 教室の様子

こちらは小学生学習教室の様子になります。開催は月に2回、隔週の木曜日です。1時間だけ地域の公民館で学習します。この写真は低学年のお子さんたちですね。写真撮るよって言ったら、このぐらい真面目な顔して勉強します。



こちらは6年生の学習の様子です。真ん中に座って勉強してる子が6年生だとおわかりだと思いますが、周りでもちゃかしてるのも全部6年生です。学習支援員はちょっと真ん中の髪の毛薄めの方。先程小宮先生のお話の中にありましたね。始めた人と同じぐらいの年齢の人が集まる。紛れもなくうちもそうです。



こちらは中高生の学習教室の様子です。毎週木曜日、月に4回開催し、2時間学習します。5教科の中から生徒の希望する2教科を選んでもらって月に2回は個別対応、残りの2回は自習してもらっています。太洋中学校という地域の中学校の体育館に立派な会議室があるので、そちらで活動しています。これは中学1、2年生の学習している様子ですね。学習支援員はそのメガネかけて顎にマスクしている方です。



こちらは、中学3年生の男の子2人に学習支援さんは1人です。下は1～2年生の活動の様子ですね。だいたい1人の支援員さんに対して2人ないし3人の生徒さんとなっています。

現在、小学生は37名に対して支援員が14名。中高生は、生徒が27名に対して13～14名の支援員で対応している状況なので、本来私たちは個別学習をすることを目的としているんですが、どうしても1対1にはなれずにですね。今は1対複数というふうになっているのが現状です。



## 選べる学習方法

特に中学生なんですけれども、コロナ禍を契機にリモート学習ができるようにタブレットをたくさん用意しましてですね、ここに通ってくることができない、または来たくないというお子様に対してはご家庭でのリモート学習対応をすることもあります。また、無料でオンラインの通信学習が受けられるように、私たちが提携していますICT教材eboard（イーボード）を活用して家庭で学習することもできます。ですから、会場、リモート学習、通信学習の3種類の学習方法を選べるようにしてあります。

## 食支援事業 須賀の寺子屋食堂スタートのきっかけ

活動を始めた翌年に、学習支援員さんの中で仕事帰りに来ていただいている方たちがおりました。そうすると活動中にお腹空いちゃうんで、じゃあということで、私がカレーでも作って召し上がっていただこうと思って始めたら、1、2ヶ月したところで、当時の太洋中学校の校長先生から、ある中学生の男の子が家庭で作ったものが食べられない子がいるんだけど、この子にも食べさせてくれないかっていうお申し出がありまして、それを皮切りに、「須賀の寺子屋食堂」を始めることになりました。現在は保護者の方々が手作りでお料理を作って協力してくださっています。子どもたちが学習の合間に20分間休憩を取ってご飯を食べてるんですが、いつも、わいわいがやがやしてるので、担当支援員の方から早く終わって勉強を始めろって怒られてます。

こちらはフードパントリーの様子です。お米や必要な物を配らせていただいております。それから、私たちは神奈川県立高浜高等学校定時制の生徒さんを対象にフードパントリーを年に4回、定期的に開催させていただいています。また神奈川こども食堂・地域ネットワークとひらつか子ども食堂ネットワークのメンバーに加わり、みんなで食料品の分配等もしております。NPO法人報徳食品支援センター(県西を担うフードバンク)からは大量のご支援をいただいております。それから企業様としては、Pasco湘南さんから食パンを、それからわくわく広場さんからは野菜を、地域のパン屋さんの高久製パンからは菓子パンのご提供をいただいております。

須賀の  
寺子屋  
食堂



フード  
パント  
リー



## 相談対応 連携団体



- 平塚市社会福祉協議会
- 港地区社会福祉協議会
- 港地区民生委員児童委員
- 平塚市くらしサポート
- 平塚市こども総合相談
- 平塚市子ども教育相談センター

## 相談対応 連携団体

相談対応には、グループで専門知識のある者が対応しておりますが、私たちだけでは解決に至らない場合は、こちらに書いてある公的な支援のところと結びつけまして、早急なお悩み解決をできるようにしております。

## 支援員研修

こちらは支援員の研修会です。様々な団体のみなさんと連携しています。左の写真の方は企業の方でSNSの学習をしたところです。

下の写真はスクールカウンセラーと太洋中学校の校長先生による子どもの心や発達、現在の学習状況について研修しているところです。

他にも、小児精神科の専門医をお呼びして子育て当事者の人たちと一緒に、200人規模の研修会を開く等しております。



## 最後に

須賀の寺子屋は、企業や団体、学校、NPOなどさまざまな皆様のご協力と連携とご支援によって運営しています。先ほどもご紹介いただいた通り、かながわ生き生き市民基金さんには、コロナ禍、大変お世話になりました。私たちも有意義な活動ができるようになりました。ありがとうございました。みなさま、ご清聴ありがとうございました。



## 助成団体活動報告③

# みんなのいばしょポプケ

代表 武田 恵氏



生活クラブソーシャルインクルーシブ助成 第1期・2期

みんなのいばしょ ポプケ



### ポプケの活動でめざすこと

こんにちは。相模原市で「みんなのいばしょポプケ」を運営しております武田です。よろしくお願いいたします。私たちは学習支援を中心にやっているわけではなく、地域の居場所、小中学生の学習支援ということで、メインが居場所という形になっています。ホームページの「ポプケってどんなところ？」に私たちの活動のすべてが集約されているかなと思います。

2022年4月に開設しまして、今、3年が経とうとしているところです。開設の半年ぐらい前から、私と佐藤弘子さんの2人で、こんなことやりたいねと話しながら、志を持って準備を始めました。そこに、旧来の友人や新しく知り合った方が加わり4人で準備を始めました。最初、私は学習支援をメインでやりたいと思っていたんですが、みんなで話をして行く中で、まずは、子どもが来られる居場所をつくりたいねということになりました。その居場所は、小中学生対象で、誰でも好きに過ごすことができる場所、宿題を持ってきて勉強するのも良いし、遊びに来るだけでもいいよという非常に自由な空間として始めました。で、どんなところと感ずるかは、それは子どもたちの自由。とにかく安心できる場所でありたいということでスタートしました。

なぜこういう活動を始めようと思ったかという、先ほど小宮さんが、東日本大震災で愕然としたと話していらっしゃいましたが、私たちも、世の中これでいいのかなって愕然とすることが多かったんです。一つは佐藤さんが住んでいる大きなマンションで小学生とエレベーターが一緒になって、ご主人が何年生？って声を掛けたら、返事がなかったことがあったんですね。おかしいなあとと思っていると、知らない人には声をかけられても返事をしちゃいけないってということだったんです。私と佐藤さんはもう愕然とするわけですよ。子どもたちを取り巻いている社会はどうなっているんだろう。子どもたちが少子化で大事にされなくちゃいけないはずなのに、子どもたちにとって本当に安心できる社会にはなっていないなっていうことを凄く感じました。地域で子どもたちに気軽に声をかけちゃいけないみたいなのは、本当にさみしいなあって思います。それで私たちとしては、私たち自身がどんな社会に住んでいたいかっていうことを実現しよう。子どもたちのためにというよりは、どんな社会でありたいかを示したいという思いを持って始めました。そこに何人かの友人も賛同してくれて、立ち上げの準備をして行きました。

月・木（平日）14：30～17：30（冬期間は17時まで）  
小中学生対象のいばしょ

～予約は必要ありません

子どもたちが、安心してのびのびとすごせる場所でありたいと願っています。  
異年齢の子ども同士の関わり、またボランティア学生や、幅広い年齢層の大人との関わり、色々な出会いのある場所です。

木曜日（平日）10：30～13：00  
ほっと♪ポプケ

～大人も子どももどなたでも

☆忙しい合間にほっと一息つきたい時  
☆誰かとちょっとおしゃべりしたい時  
☆小さいお子様の遊び場として…

茶菓を用意してお待ちしています  
気軽に遊びに来てくださいね

♪楽しいイベントを企画しています

ポプケ文庫

本やコミックの貸し出しもしています。  
絵本もたくさんあります。

地域の人たちにとっての  
ほっとできる居場所として

ポプケの個別学習支援 水曜日午後（平日）

分かる喜び、考え工夫すること…「学習」は、いやいややるだけのものではなく、楽しいものでもあるはずです。ポプケでは、子ども達が意欲をもって学習に取り組めるように学習支援をしています。個々に合った学習方針を考えてスタッフやボランティアと一緒に学習を進めています。  
参加条件などはなく無料ですが、予約が必要です。  
どうぞお気軽にお問い合わせください。



ポプケを始めたころの  
武田さんと佐藤さん



## ポプケってどんなところ？

## ～ポプケHPより



- ・「みんなの いばしょポプケ」は小中学生ならだれでもきて、すごすことのできる場所です。宿題をもって来て勉強するのもいいし、遊びに来るだけでもいいところです。必要に応じて学習支援もしています。参加費などは必要ありません。「どんなところ」と感じるかは子ども達の自由。安心できる場所、と感じてもらえれば嬉しいです。
- ・「ポプケ」とは、アイヌ語で「あたたかい」という意味。社会不安、経済格差などなど・・・、子ども達がのびのびと不安なく育つことが難しい現代社会にあって、子ども達に社会のあたたかさを伝えたい、人のぬくもりを伝えたい、との思いから、ボランティアで運営する任意団体として2022年4月にスタートしました。だれにとっても、あたたかい場所であるように願っています。
- ・相模原市・相模原市社会福祉協議会の後援をいただき、運営費は、社会福祉協議会の子ども健やか育成事業や、かながわ生き生き市民基金などの助成金や寄付などで賄っています。開催場所として使用している生活クラブ生協からも様々なご協力をいただいています。
- ・運営や計画に関してはスタッフが決めています。開所中はスタッフとボランティアメンバーで、子ども達を見守り、一緒に遊んだり、学習支援をしています。福祉領域に長く携わってきた者、元教諭、保育者、青少年育成活動経験者、子育て経験者、現役大学生など子ども達の育ちに関心や課題意識を持ち、何かできることをしていきたいと思うメンバーが集まって、それぞれができる形、出せる力を集めて皆で「ポプケ」という場所を形作っています。

### ポプケの名前の由来

ポプケの意味なんですけど、私と佐藤さんは、たまたまなのですが北海道出身なんです。で、アイヌ語でなんかいい言葉がないかなって探していました。ポプケとはアイヌ語で「あたたかい」という意味なんです。今、社会不安、経済活動、子どもたちがのびのびと不安なく育つことが難しい現代社会にあって、子どもたちに社会ってあたたかいんだよ、人って信用していいんだよっていうことを伝えたいなあって思って、ポプケという名前にしました。

### ポプケの活動

今は、小中学生対象の居場所、個別学習支援、ほっと♪ポプケの三本立ての活動になっているんですけども、1年目は週2回の小中学生の居場所だけだったんですね。その中で勉強も見てもあげようかなと思ってたんですけど、子どもたちが想定していたよりも、ものすごくたくさん来てくれるようになって、最初は15人ぐらいをイメージしてたんですけども、どんどんどんどん子どもたちの口コミで広がって行って、一昨日も50人以上の子どもたちが来てて、後で写真見ていただければわかるんですけども、やんやんやんの大騒ぎなもんで、なかなかこう落ち着いて勉強するっていうふうにはなかったんです。

何とか落ちついて学習できる環境が作れないかなあっていうことで、2年目に学習支援に特化した週1回の個別学習支援を始めました。事前に保護者との面談を行っていますが、ポプケの場合、学習意欲のある子たちばかりではありませんし、自己肯定感が低いなど感じる子どももいます。もちろんお母さんたちも何とかしたいと思っているのですが、私たちの方がなんとかしてあげたいという思いが強くなって、この子にはどういう学習支援をしていこうかと悩みながらやっています。スタッフ以外にボランティアさんが10名近くいらっしゃるんですが、多種多様な方たちに支えられながらやっています。

ほっと♪ポプケっていうのは、3年目になる2024年度から始めたものなんですけれども、居場所がですね、さっきも言ったように、ものすごい子どもたちがいっぱい、私たちが想定した不登校の子や支援級の子だったりとか学校で居場所がない子たちがちょっと来づらくなっちゃったんですね。あとは不登校のお母様からホームページを見てのご相談があったりということもあって、昼間もやってみようということになり、10時半から13時まで、誰が来ても良いいってということで始めました。中学生の不登校の男の子がいつもきて、私たちおばちゃんたちと一緒に茶饮みをしたりしています。あと、とても嬉しいことに、ちょっと認知症になりかけてるかなっていう年配の女性の方が、こんなところがあって本当に良かったと言って、毎週毎週迷いながら、道を覚えられないからなんですけど、やってきてくれたりしています。

## 日々の活動の様子

場所はさがみ生活クラブの相模原センターの3階で活動しています。生活クラブには家賃を払って借りています。

これが、子どもたちの居場所の様子です。ゲームをしたりとか、ピアノはみんな大好きでよく弾いています。卓球台も大人気で、卓球やってるんだか何やってんだかよく分かんないんですけれども、おおぜいでいろいろやっています。他にも、風船遊びをしたり、Switchとか持ってきてやったりしています。寝そべてゲームやってる子たちもいます。

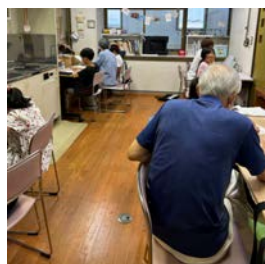
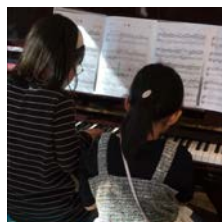
ポプケでは何を持って来ても良いことになっています。特徴としてルールが何もないんです。私たちは、子どもたちをルールで縛りたくないっていうのがあって、何を持って来ちゃだめとか、何をしちゃ駄目ってことは一切ないんです。もちろん駄目なことは駄目ってその場で言っています。だからこちらも本当に真剣勝負で子どもたちと向き合っています。

ボランティアの年齢層もすごく幅広くてですね。70代、最高齢85歳の男性の方とかも来ています。最近ちょっと病気を患って、「武田さん、俺もうだめだわ」、「まあ、また元気になったら来てください」という話をしたりしています。若いところでは、学生さんのボランティアとか、生活クラブ生協のインターンシップの方が来てくれます。

外の遊び場(屋上)は、夏になると、ここはプールかっていう状況でびしょびしょになって水遊び等をしています。

個別学習支援は、現在子どもたちが13人来ていて、だいたい7~8人のボランティアスタッフで、なるべくマンツーマンでできるようにやっています。終わった後、ゲームで遊んだりとかもします。先ほども言いましたように、学習意欲のない子がいたりとか、小宮さんの話にあったように、家庭の状況がものすごく深刻だなんて思うこともあります。中学3年生の支援級の女の子が高校に行きたいけれども、家にお金がないから1年間アルバイトをして、高校に行くってっていますが、でも現実、難しいじゃないですか。私たちもどうサポートしたらいいか、本当に悩むことばかりです。

右下の写真はですね、ポプケではいつもおやつを出してるんですけど、なんか相模原市から40個ぐらい卵の寄付があったりとか、このスイカは誰かからもらったんでしたかね。



## ほっと♪ポプケの様子

### ～地域の人たちに開かれた居場所として、どなたでも～

赤ちゃんを連れたママが来てくれたりして、今、ポプケに来ているお母さんたちとの交流も少しできつつあるっていいかなと思っています。



## 子どもを支える活動のネットワークを作る

ネットワークづくりとしては、まだ、ちゃんととしたネットワークができてないんですが、中央地区子どもの居場所連絡協議会を立ち上げました。近くで活動している団体であったり、個人であったり、まあいろんな限定をせずに、一緒に子どもたちの育ちを考えていこうというところでつながりを作っていきたいなと考えて立ち上げているところです。この後のパネルディスカッションでその話を深められればと思います。私たちの活動報告は以上になります。ありがとうございました。



### 中央地区こどもの居場所連絡協議会「今こどもたちのいるところ」規約

(名称) 本会は、中央地区こどもの居場所連絡協議会「今こどもたちのいるところ」と称する

(目的) 当会は、地域で子ども達の育ちに関わっている諸団体同士が互いの活動を知り、連携することで子ども達の豊かな日々を支えていくことを目指す

(メンバー) 当会の構成メンバーは、地域で子ども達の育成に関わる団体(公的、民間問わず)または個人で、当会の趣旨に賛同し、参加を希望する者とする

(協議会の開催) 会の開催については、定例会3回(7月、12月、3月)とする  
臨時開催については、メンバーで協議の上決める

(事務局) 会の円滑で継続的な運営のために事務局を設ける  
事務局は、会の開催についての準備連絡、会で決まった事のメンバーへの周知、経費発生の場合のとりまとめなどを行う。

2025/2/

16

## パネルディスカッション

# 無料学習支援から地域で子どもを支え合う ネットワークづくりを考える



コーディネーター  
NPO法人メダカのお弁当 理事長 鈴木 雄大 氏

鈴木: パネルディスカッションのテーマは、「無料学習支援から地域で子どもを支え合うネットワークづくりを考える」です。武田さんは身近な地域のネットワークを、大野さんは行政とのネットワークをそれぞれ作ってきておられますので、もう少し深掘りして行きたいと思います。



## 身近な地域でのネットワーク作りの重要性

武田: 2024年11月に、ポプケの呼びかけで「中央地区子どもの居場所連絡協議会」を設立しました。なぜかという、私たちの活動は、地域の中でそれぞれ点ではないかと思っていて、その点を線につなげて面に行きたいというのが思いがあったからです。例えば、ポプケの雰囲気はちょっと合わないなと思う子どもがいた場合、他の居場所や学習支援を紹介できるように、近隣の活動団体同士が連携できていたらいいなと考えました。それと、学校と連携していきなすという思いもありました。メンバーは子ども食堂、私たちのやっている居場所、学生さんがやっている学習支援など15団体ぐらいです。行政とか社会福祉協議会もオブザーバーで入ってくれています。学校との連携は模索中ですが、協議会の立ち上げ時には、地域の中学校の校長先生が来てくれてお話をしてくれました。

鈴木: 子ども支援活動をしていると、こうでなければいけないという意見が結構あるんですが、ここがダメでも他でというのは、実はとっても大事なことで思っています。AがダメでもBがある、BがダメだったらCがある。いろんな活動があるからこそいろんな人に届く。だから、活動団体同士お互いを尊重し合う。そういった意味ですごくいい取り組みですね。



パネリスト  
みんなのいばしょポプケ  
代表 武田 恵 氏

## 地域の学校との連携の作り方

鈴木： 学校との連携についてはどうでしょう。実は難しくて、学校の校長先生によってまるで違う対応ということはよくあります。そういった意味でうまくやっている大野さん、学校や行政との連携のコツとか、どういう経過だったのか教えてください。

大野： おっしゃる通り難しいです。最初に太洋中学校さんと共催で活動できたのは、たまたまそういうことが大好きな校長先生と巡り合いお話をすることができたからです。幸運でした。しかし、当時の近隣の小学校の校長先生からは「こんなの利用する子どもはうちにはいないよ」の一言でした。ようやく昨年左右くらいになって、平塚市内の校長先生たちから認めてもらえるようになりました。須賀の寺子屋の認知度が高まってきたことと、この間の活動を通して実績と信頼を積み上げてきたことで、徐々に子どもの情報も共有できるようになってきました。子どもとご家庭にとって非常に有益なことだと思います。

鈴木： 学校に限らず行政機関もそうですが、担当者が代わると、ころっと変わっちゃう。もしその校長先生代わったらどうします？

大野： もう大丈夫です。

鈴木： その自信はどこから来るの？

大野： 須賀の寺子屋も10年目を迎えるということで、信頼に値するだけの活動をご協力の支援員さんたちと共に積んできているという自信がございます。例えば中学の卒業生が50人を超えていますが、この間ずっと、全員第一志望合格という実績を出しております。これも簡単ではないんですよ。これまでの活動を通してつくった信頼に基づいた人脈や情報網を駆使した成果です。今では、太洋中学の校長先生が次の方に代わる時に須賀の寺子屋のことを必ず引き継いでもらえるようになっています。

武田： すごいですね。地道な活動で信頼を得ていくに尽きるってというのは本当にそうだと思います。ポプケも3年近く経って、多くの子どもたちが来てくれるようになったので、学校でもポプケの話が相当出るみたいなんですね。先生たちも子どもたちからよく聞きますって言ってくださいます。先生もポプケをもっと見に来てくれるといいなと思っています。「学校へ行こう週間」という地域の人や保護者が学校訪問できる機会には、私たちも子どもたちの様子を見に行ったりしています。須賀の寺子屋のようにポプケも引き継がれることをめざしたいです。

先ほど大野さんが、学校との連携の中でいろんな情報を得られるようになったとおっしゃってましたが、今、個人情報共有はものすごく難しいと感じるんですけれども、どのようにされているのですか？

大野： もちろんそうです。でも本当に困りごとを抱えていらっしゃるお子様と、そのご家族には「これ学校と相談してもいい？」とちゃんと許可を取って、それから私の方から管理職である校長・教頭先生にお話しするんです。そうすると学校側のお子様を見る目が変わるんですね。実際にそれによって救われたDV家庭のお子様もいらっしゃいます。学校の先生たちはみんな子どもたちが大好きで、守りたいと思ってくださっていますから。本当に必要なことはこちらから発信していくようにしています。

パネリスト  
子ども学習支援グループ須賀の寺子屋  
代表 大野 文氏



## 団体運営の問題点は何ですか

**大野:** やっぱ、人です。支援員さんの勉強量はものすごいんですよ。分厚いノートやファイルをしっかりと持って、教材をたくさんつくってこられる。でも全然それのお礼ができてない。そうするとやっぱり、長くやっていただくことは難しいのかもしれないと一つには思います。なので、年に1回子どもたちからありがとうって書いた紙を支援員さんにお渡しすることでお礼に代えています。

**鈴木:** そういったありがとうという言葉が一番嬉しいんじゃないでしょうかね。つばめ塾も卒業文集をボランティアの方にお渡ししてますが、僕たちのモチベーションになってます。

**武田:** いつもいつも試行錯誤で悩みながらやっているのですが、今は人というところでは、あまり心配してないんです。あんまり先のことは考えすぎず、一期一会というか、今この人と出会ったことを喜んでるっていう感じです。本当にボランティアさんも子どももそうなんですけれども、本当にあなたに出会えてよかったっていうことを伝えていきたいなって思っています。この先どうかはわかりませんが。

悩みは尽きなくあります。私が30年ぐらい前に子育てしてた状況とはずいぶん違って、子どもたち同士が傷つけ合ったりとか、子どもたちの心が気になることがいっぱいあります。先ほども言いましたようにポプケにはルールがないので、私たちも子どもたちと向き合うときは真剣勝負です。ルールがあるからやっちゃダメなんじゃなくて、どうしてダメなのかいうことを、徹底的に話すのですが、こんなんでいいのかなって思いながらやってます。

## ボランティアの方々とつながりづくり

**鈴木:** あと、ネットワークづくりということで、ボランティアの方々とつながりについてはどうですか。どのように声をかけているのか、あるいはどういう方々と一緒にやってるのか、そのきっかけは何だったのか教えてください。

**武田:** ボランティアの方とのつながりは非常に大事にしています。最初、何の報酬もなく人が集まってくれるのかなって思っていました。相模原市では「いるかバンク」というボランティアを希望する人と活動団体をマッチングする仕組みがあるので利用しています。私自身は、友だちや初めて会った人でも、この人いいんじゃないかなと思ったら、あんまり心配せずに「どう？」って声かけています。さらに、ポプケに共感した人からその友だちへ広がっています。あと、ボランティアさん自身にとっても、ポプケで活動して良かったって思えるようにつながっていけたらなって思ってやっています。

**鈴木:** メダカの学校の相模原二丁目教室は地域自治会と連携してるんですが、地域のおじいちゃんおばあちゃんとかに手伝っていただいています。その方たちが「今まで全然外に出なかったんだけど、月に2回のメダカに行くのが楽しみで楽しみで生きがいが見つかったんだ」と、すごく生き生きとして話してくれることがありますね。

**大野:** 年に一度、市民活動センターがボランティアとのマッチングの会をしていて、毎年そこからボランティアの方に来ていただいています。ほとんどの方がボランティアさん同士の口コミで来てくださっている状況です。実践している方ができそうな方を見つけて広げていくという方が確実な感じです。高齢化が進んでいることと定年が延長されて、長く仕事をしてらっしゃる方が多くなっていて、人材については非常に課題となっております。



## 高齢化問題と学生の活躍

**鈴木:** 高齢化の問題は、どの団体でも必ず出てきますね。ポプケはどうですか？

**武田:** 立ち上げた人の年代層の人が集まると、小宮さんのお話にあったように、私たち60代ですけれども、やっぱり60代が圧倒的に多く70代以上も3~4名いらっしゃいます。あと、50代の市議会議員の方、プロ女子サッカー選手の方もいらっしゃいます。今、私たちの活動において、あまり高齢化は課題となっていないんですが、高齢だから来られるって部分もありますよね、経済活動が終わりになって時間があってつてなると、どうしてもそうなるのかなと思います。

**大野:** うちですね、ニッセイ財団の『生き生きシニア活動顕彰』をもらったぐらい年寄りだらけ。最高齢は82~3才。あとは、SNSとかホームページを見て、興味を持ったという人もおいでになります。そのなかでの一つの特徴なんですけど、社会復帰する手前の足がかりにこの活動をしてみてという、心を壊したことがある方、疾病の方たちは常時誰かしらいらっしゃいます。あと、学生さんも来ます。うちは中学校卒業した高校生が舞い戻ってくる。やったらいるんですよ、下の子たちの面倒見たくてしょうがないんですね。それを彼らは「恩返し」ですというんですね。大学生もいます。大学生の場合はですね、教職課程を取っていたり、論文書きたいと思っている人たちもいます。頼まれればいいですよって言って受けてます。

**武田:** ポプケには、近くの桜美林大学や青山学院大学の学生が来てくれます。私はその学生たちが子どもと一緒に生きてきとしている姿を見て、日本の未来も捨てたもんじゃないなと思ってます。授業の一環として来てくれていた桜美林大学の学生が、その後自宅のある藤沢市で子ども食堂のボランティアとして関わっているって話を聞きました。ポプケに関わった学生たちが卒業後、どこかでまた、こういった活動に関わってくれたらいいなと思っています。

**鈴木:** いや本当、学生たちすごいですよ。大学生なんて暇だろうってというのは、僕らの時代でね。今の子どもたちはめっちゃ真面目ですよ。僕ら学生のころ、ボランティアなんてしたことないのに大したもんだなあと思います。相模原市に「かけはし」という学生団体があって、登録人数70人ぐらいなんですけど、どうしたらそんなに集められるの？って聞いたら、まず、ちょっと1回来てごらんみたいな感じで単発のイベントに誘うんだそうです。入口のハードルを低くして、楽しくやって、それから広げていくのがいいそうです。あと、1回行ったらもうずっと抜けられないんじゃないかっていう怖さってあると思うんですね。「さがみはらこどもの居場所サミット」でも、運営チームは一年で区切っています。



## (会場からの質問)



## 行政と連携したときのメリットデメリットは何ですか？



**大野:** メリットは、こちらの困っていることをすぐに助けてくれるってということなんです。デメリットの一番大きいのは、個人情報への取扱いです。これがとっても大きいです。それと、担当者が数年で代っちゃうことですね。役所は、教育委員会も含めて申し送りをしないです。だから、課長が代わったら対応は変わってしまいます。そこで、課長、課長代理が動いても申し送りできるようなシステムづくりを市長のところでやって頼みました。それはもう首長から始めないと動かないです。

**鈴木:** 市長とつながるのはなかなか難しいのでは。

**大野:** 選挙の前を狙ってください。選挙運動が始まる2週間前のちょっと前は狙いどころですよ。候補者になるだろうなあっていう人のところには全部行くんです。あ、これ笑い事じゃなくずっとやってきました。それで通したこと、いっぱいあります。平塚小中学校に司書を配置するっていうのもそれでやりました。もちろん全部の会派と仲良くしています。

**鈴木:** 実は市議会議員さんと相談した内容は、課長に必ず繋げなきゃいけないっていうルールがあるみたいなんです。ですから、市議会議員さんだとか市長さんとかと繋がり、パイプを持つことは、僕たちの活動をする上でとても大事なこともかもしれません。

## 最後に支援活動を始めた動機を教えてください

**鈴木:** なんて見ず知らずの子どもやご家庭のために自分の時間とお金を使って活動しているのか？ その根源的な思いは何ですか？そもそもなんではじめたのか。そして、その思いをどうやって継続していこうと思っているのか。その思いをちょっと教えてください。

**武田:** 自分がどんな社会に住んでいきたいのかに尽きます。こんな社会だったらいいなって思うものをポプケで実現しようとしています。ある意味無謀な挑戦だなんて思っています。

とある記事に、とても過酷な環境の中にあつた青年が新聞配達先のひとりのおばあちゃんから毎朝ありがとって言うてもらえたことで、自分はぐれないで育ったっていう話が載っていて、ものすごく印象に残っています。ポプケもそういうおばあちゃんのような存在でありたいなって思ってます。

**大野:** 私は頼まれてるからやってるだけなんです。でも、頼まれたことには誠実なんです。うちのメンバーはみんなそういうところがあって、頼まれればやぶさかじゃないのって言います。そしてよく動きます。子どもたちに信じられる大人がいることを教えたいんです。すごく大事なことです。私たち須賀の寺子屋は信じられる大人でできてるということを伝えて、だから「安心していいよ、この社会」っていうのを伝えたいんです。

**鈴木:** 全国こども食堂支援センター・むすびえの湯浅理事長が必ず言う言葉は「いい祖先になりたい」。宗教改革をやったルターは「たとえ明日世界が滅亡しようとも、今日私はリンゴの木を植える」という言葉を遺しました。僕もそうでありたい。そして、なんらかの形で次世代への足跡を残していけたらと思っています。また、マザー・テレサは「大切なのは、どれだけ多くのことをしたかではなく、どれだけ愛を込めたかです」という言葉を遺しています。これもまた心に刻みながら活動したいと思っています。また今日この後、メダカの学校に妻と一緒にいきますけれども、頑張っていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。





# 参加者からのフィードバックより

## 小宮 位之さんへ

- ・ 教育格差の広がりに関心を感じております。「世の中を立て直す」ことが必要だというメッセージに共感します。自分にできる事は何か、できる事からやりたいと思います。
- ・ ご自身の体験と実践のお話は、説得力がありました。また会場の笑いを誘い引き込まれました。基調講演でこんなに笑う講演は、初めてです。「教えているのは希望」という言葉が印象的です。つばめのようにボランティアのフィールドに戻ってきて欲しいという理念も、今の社会を変えていきたいという小宮さんの熱意と決意が伝わりました。
- ・ 同年代です。昔短い期間でしたが無料学習塾で教えてもらった経験がありました。学ぶ気持ちがある人には、どんどん学んでほしいと言っていたことを思い出しました。
- ・ 14年間やってきた私たちの無料塾が正しかったかどうか？確かめたくて参加しました。正しかったということを確認しました。
- ・ 「人の役に立ちたい」が最優先になっていることが、お言葉の端々から伝わりました。
- ・ 無料塾についてはあまり理解できていませんでしたが、今日のお話を聞いて色々気づきがありました。子ども達の貧困や様々な状況をお聞きする中にはとてもつらい現実があり、改めて、知るという事も大切なんだと思いました。
- ・ 本も拝読させて頂いておりましたが、ちょうど、メダカのお弁当鈴木様より愛川町にメダカの学校どうですか？とお声がけいただいたタイミングで、熱がこもった先生の講演をお聞きし、改めて、学びに投資がたいご家庭のお子さんへの、学びの場の重要性を認識し直すことができました！

## 鈴木 雄大さんへ

- ・ リアルな当事者感覚にすごく説得力を感じました。また、意志を行動に移すスピードにも圧倒されました。
- ・ 子ども子育て支援大賞、来場者の投票で選ぶなど、マッチングの場を持つことが素晴らしい考えで、こんなやり方があることにびっくりしました。期待しています。
- ・ マザーテレサの名言を久しぶりに聞いたことで、私も忘れかけていた初心を思い出、改めて頑張ろうと思いました！地域の団体同士のネットワークの重要性、ひしひしと感じている所です。
- ・ 鈴木さんの進行は上手で、聞きたい事をズバリ聞いて下さいました。

## 大野 文さんへ

- ・ ご自身の専門性、経験、ネットワークをフルに活用されていて脱帽です。ユーモアと温かみをたっぷり感じるお話でした。強い信念と優しい心をお持ちで素敵です。
- ・ 大野さんの静かな風貌、語り口の裏に百戦錬磨されて来た強い自負が感じられ、驚きました。
- ・ 「須賀の寺子屋」さんは時折お名前をお聞きするので、どういった方が運営されていらっしゃるのだろう…と興味津々でした！今回のディスカッションを通じて、とてもパワフルで力強い、そして温かいお人柄に少しでも触れることができて、私もわずかでも、近づけるようになりたい…と思わせてもらいました。行政との連携のコツも、とても参考になりました。

## 武田 恵さんへ

- ・ ご活動を拝聴し『ルールを設けず』というのはある意味、運営側にとっては1番難しい条件で、その中で、子どもたちが沢山に集う居場所を運営されていらっしゃる事が本当に素晴らしいと思うと同時に、たいへんな見えない形での苦勞をされている事だろうな…と感嘆の思いです。ご高齢の方のボランティアも素晴らしいですね！きっと、ボランティアさんにとっても大切な居場所になられていらっしゃるのだろうな…と僭越ながら、思わせてもらいました。当団体も名前に「居場所」とつけておきながらなかなか実践できておりません。たいへん今後の参考になりました。
- ・ あたたかく、子ども達を見る目が素敵だと思いました。

## 全体へ

- ・ ネットワーク作りが重要なんですね。ボランティア同士、利用者と運営側、行政や学校との連携など、つながることが大切であり、様々なことの解決になるという事。生活クラブの活動にも似ているのでしょうか？信じられる大人がいることを知って欲しいから活動をしているという言葉が心に残りました。
- ・ 様々なエピソードを含めたお話、とても聞きやすかったです。それに今後の私たちの活動のヒントがあちらこちらに散りばめられた内容でした。今後に活かしていきたいと思います。



# 謝辞



「子どもの『今』を支え、『希望ある未来』へつなげる」というテーマのもと、市民活動応援フォーラムを無事に開催することができました。多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げます。基調講演をしてくださった八王子つばめ塾の小宮様、活動報告およびパネルディスカッションにご登壇いただいたメダカのお弁当の鈴木様、須賀の寺子屋の大野様、ポプケの武田様には、取材や現地見学、打ち合わせなどでもご協力を賜りました。準備期間は10か月を超えましたが、フォーラムの内容を構築するにあたり、多くの貴重なヒントをいただきましたことに感謝いたします。行政や協同組合団体など10団体からのご後援もいただき、生活クラブ生活協同組合には参加呼びかけ等にもご協力をいただきました。

また、当日参加できなかった方々からアーカイブ配信を希望する声を受け、YouTubeでの動画配信を行ったところ、多くの方にご視聴いただき、反響の大きさを実感しております。

この度、報告書が完成いたしました。フォーラムでの学びや感動がさらに広がり、地域における市民活動のネットワークづくりや新たな活動参加、寄付参加など、具体的な行動につなげるためのツールとしてご活用いただければ幸いです。

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 副理事長 桜井 薫



2025.2.8(SAT.) オルタナティブ生活館スペースオルタ

# 「子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金」への寄付のお願い

2019年度にスタートした「子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金」は、これまでに延べ146の市民や団体より総額543万円の寄付が寄せられています。

かつては総中流社会と云われた日本社会ですが、この20年余りの間に格差・貧困が加速度的に広がり、子どもを取り巻く状況が悪化し「貧困の連鎖」が起っています。

この基金では市民が連帯し問題解決をめざす活動を応援します。2022年度より、無料学習支援団体を対象に3回の助成を実施し、延べ36団体へ約300万円の助成を行いました。

これからも、この助成を継続していくために多くの市民や団体の皆様からの寄付をお願いいたします。

## 貧困の連鎖を断ち切り希望ある未来に向けて

内閣府が公表した「令和3年子供の生活状況調査」によると、親の学歴別貧困家庭の割合では、中卒が40.6%と最も高く大卒の4.6%の約9倍の高さとなっています。世代を超えた貧困の連鎖とならないよう、どんな場合（ひとり親世帯、外国にルーツのある人等）でも、子どもの学ぶ機会が安定してあることはとても重要です。塾に行けない子どもたちを無料塾・フリースクールなどの活動で支える市民活動を子どもの貧困に立ち向かう市民応援基金で、これからも支えていきましょう。



### ●基金のしくみ

1口1万円から寄付を募集します。

●以下のURLから所定のフォームで申し込みのうえ、以下の口座にご入金ください。

[https://lively-citizens-fund.org/children\\_form](https://lively-citizens-fund.org/children_form)

名義：公益財団法人かながわ生き生き市民基金

ゆうちょ銀行 記号番号 00220-6-102971

ゆうちょ銀行以外から ○二九店（ゼロニキュウ店） 当座 0102971

公益財団法人への寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。



公益財団法人

かながわ

生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-2-15パレアナビル6F

TEL:045-620-9044

FAX:045-620-9045



## 2024 市民活動応援フォーラム報告書

発行日 2025年6月 発行部数 1,000部 発行責任者 荻原妙子

※本報告書の記事・イラスト・写真等の無断複製・複写・転載(webを含む)を禁じます。